

# 就学前保育・教育施設へのインターンシップの効果と課題Ⅲ

## －目標カードの作成と効果検証－

### A Study on the Effects and Problems of the Internship

#### at Preschool Institutions III :

#### Creating a Goals Card and Verification of Effects

谷口 一也\*

下里 里枝\*\*

Kazuya TANIGUCHI

Satoe SHIMOZATO

## 抄 録

保育士・幼稚園教諭の確保に向けた動機付けの機会として、また質の高い保育者養成を行う上で、大学初年次に行われる「インターンシップⅠ」は重要である。本研究では、インターンシップ生の目的意識を明確にし、インターンシップの効果を最大化するために導入した目標カードの有用性について検討した。

目標カードの導入の結果、インターンシップ前の目標設定が前向きで具体的なものになっていた。また、インターンシップ後には、次年度の保育実習に向けて具体的な個人の課題を把握することができていた。また、個別目標はおおむね自己評価と評価者からの評価が一致していた。しかし、共通目標に関しては保育者とのコミュニケーションを中心に評価者からの評価が自己評価に比べ低い傾向にあったため、この結果を踏まえ事後学習の内容を改善していく必要があると考えられた。

## I はじめに

全国的に保育園・幼稚園へのニーズが高まっており、保育園・幼稚園の受け皿拡大と保育者の確保が急務である。これに伴う保育士・幼稚園教諭養成校の課題としては、入学した学生のうち保育園・幼稚園へ就職する学生が十分ではないことが挙げられる。保育園・幼稚園への就職率を上げるためには、入学した学生のうち「どの程度の学生が保育園・幼稚園へ就職したいと考えているのか」、また「進路変更の可能性がどの程度あるのか」について把握したうえで初年次から就職希望先を意識した指導が重要となってくる。この量的な人材確保に加え、質の高い保育士・幼稚園教諭を養成

---

\* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

\*\* 関西国際大学教育学部 教育総合研究所学内研究員

するという質的な人材確保も重要である。

保育士の質に関して、平沼（2006）は、保育士養成において「自らの保育を省みながら問題を引き出し理論を紡ぎだすことで問題を解決していく力」を育てることが不可欠であると述べている<sup>(1)</sup>。具体的には、後藤（2011）は、「養護性、共感能力、コミュニケーション能力、問題解決能力、責任感、倫理観、表現の豊かさ、快活さ、と様々な言葉で説明されるであろう」と述べており、単に専門的な知識・技能だけではなく、人間性や人格を含めた保育士の養成が求められている<sup>(2)</sup>。また、平成14年6月に報告された文部科学省の報告書では、質的な人材確保に関わって、「採用されて間もない教員の中には、実践力の基礎に欠ける者が散見される。在学中に幼稚園の現場を経験する機会が教育実習以外にほとんどなく、幼稚園教諭という職業のイメージをつかみ、理論と実践とを結び付ける機会や、教員志望者自身の豊かな生活体験が欠けている点が課題と考えられる。」と述べられている<sup>(3)</sup>。このように、実習以外の現場体験も重要であり、そこでは、職業イメージをつかむこと、理論と実践を結びつけるために、実践から課題を見つけ出すことが重要である。さらに、子どもとの関わり以外の場面、例えば保育者や保護者との関わりでは、社会性など生活体験の不足を補う体験を行うことが重要である。

本学ではこれらの量的・質的な保育者養成を行っていくための初年次の科目として「インターンシップⅠ」が設けられており、この科目の取り組みが学生の在学中のキャリア意識を大きく左右する。つまり、「インターンシップⅠ」での充実した活動が保育園、幼稚園への就職率を上げることに繋がり、質の高い保育者養成へと繋がっていくのである。

昨年度までの「インターンシップⅠ」に関する研究の結果、以下のようなことがわかっている<sup>(4, 5)</sup>。

- ①保育の専門科目を学習せずに現場を体験する「インターンシップⅠ」での学びや気づきが、2年生での保育実習への期待や職業としての保育者の自覚に繋がっていること
- ②8割を超える学生が、保育士・幼稚園教諭を希望していること、一方、その希望先は卒業時までに変化する可能性があると考えている学生が約半数いること
- ③学生が自信を持って保育士・幼稚園教諭を目指せるような教育課程にする必要があること

①より、「インターンシップⅠ」では、実習後に学生自身が保育者になる者として、学生時代に何を学び・身につけていけばよいのか、課題を知ることが重要であることが分かる。②からは、多くの学生が保育者を目指しているものの、進路変更も視野に入れている学生が予想以上に多いことが分かった。その後の聞き取りから、保育者の収入が低く抑えられると感じていること、集団保育の重い責任を重圧に感じていること、2点を中心に一般企業など別の進路に変更する学生がいることが分かっている。②にも関連するが、③が意味するところは、保育者の責任に対し学生が自信を持っていない、ということである。そのため、学び続けることで、集団保育の手法や安全管理などに関して「専門性を身につけた」という自信が得られるような専門教育が必要である。「インターンシップⅠ」でこれら全てに対応できるわけではなく、2年生以上の専門教育にゆだねられる部分が多いが、

これらの課題を意識した「インターンシップⅠ」の内容・方法を取ることは大切である。

昨年度の「インターンシップⅠ」の改善では、実習園を増やし、1クラスに1名のインターンシップ生の配置を実現した。また、インターンシップの目的を学生に事前にしっかり考えさせることで、キャリア教育としての「インターンシップⅠ」が充実した科目となってきた。しかしながら、学生が考えた目標の達成度については振り返り活動（事後学習）における自己評価のみしか行っておらず、客観的な評価は行っていなかった。学生と実習先の指導者の認識にずれがあるとすれば、「インターンシップⅠ」でのずれが、保育実習や就職へ向けた質保証に関わってくる問題となってくる。そこで、学生の自己評価を実習園での評価とすり合わせるが必要になってくる。

保育士養成課程における養成校と実習園との連携に関しては全国で、「実習担当者会議内容の周知（57.1%）」、「実習訪問記録の活用（54.3%）」、「実習訪問指導の手引作成（43.3%）」など連携を密にし、学生指導の質的向上に積極的に取り組んでいることが明らかとなっている<sup>(6)</sup>。しかしながら、実習生の評価に関しては、活動中の様子や実習記録、反省会での内容をもとに、受け入れ先の担当指導者が一方的に、全ての学生を同じ尺度で評価することが多い。保育実習においては、質保証の観点からも、日々の指導で個別指導を行いつつ、評価は一定の基準に従って行うことが妥当であると考えられる。しかし、保育実習とは異なり「インターンシップⅠ」では、学生一人一人が将来保育者になるために、学生が個別の課題を見出すことを目的としているため、個人の目標を指導者と共有し、この目標に関して学生と指導者の両面から評価することが必要となる。ただし、基本的な社会性に関することは、事前事後指導を含めた「インターンシップⅠ」において共通した基準を設けて身につけられるようにしておく必要がある。

そこで、本年度の「インターンシップⅠ」では、インターンシップの前に目標カードを作成させた。目標カードでは個人目標を2つ立てさせるとともに、社会性を含む共通目標を4つ設定した。本研究では、この目標カードの評価について自己評価及び、担当の指導者からの評価を行い、検証する。また、事後学習における振り返りワークシートから、保育者になるための課題意識について分析する。

## Ⅱ 「インターンシップⅠ」の概要及び目標カードの作成

### Ⅱ-1 「インターンシップⅠ」の目的と内容

関西国際大学「インターンシップⅠ」の目的としては、「保育者をめざす学生が、学内での科目と関連させて、就学前施設で職場体験を行うことにより、保育者として必要な実践的能力を高めるとともに、自らの社会性や人間性を培うこと」である。インターンシップの活動内容としては、乳幼児の保育補助、保育教材の等の準備手伝い、保育室整理の手伝い、園内環境美化手伝い、幼児の個別支援の補助、園外散歩等の引率補助等である。この活動の前に事前学習として9回の講義を行った。また、成績は事前課題のワークシートに関して20%、実習中の活動記録に関して60%、事後学習の活動レポートに関して20%で行った。以下に、表1として各回の概要と評価を示す。

表1 インターンシップⅠの活動概要と評価

回数	各回の活動
1回目	オリエンテーション ・「教育保育インターンシップの手引き」に関して
2回目	保育者の仕事と役割について学ぶ ・保育所のDVDを見て子どもや保育者の様子から気づきたことをワークシートに記入する
3回目	多様化する就学前教育施設について、子どもの安全、生命の保持について ・幼稚園、保育所、認定こども園の違いをまとめる
4回目	保育士・幼稚園教諭のキャリア形成（キャリア支援課との連携） ・ゲストティーチャーの話聞く（保育者のキャリアに関して）
5回目	先輩たちのインターンシップⅠのレポートから学ぶ ・インターンシップⅠの活動内容とその意義及び目的について
6回目	インターンシップの心得 ・「手引き」にある注意事項の理解、個人票と誓約書の配布と下書き
7回目	0歳児から5歳児の発達の特徴について ・子どもの発達段階の概要を理解する
8回目	インターンシップで学びたいこと(目標の明確化) ・目標カードの作成 ・個人票、誓約書の提出
9回目	インターンシップ先の確認と直前指導、心得の確認 ・活動記録の書き方 ・写真を貼った個人票返却
インターンシップ活動 (3日間)	・活動記録及び目標カードの評価
10回目	事後指導 ・インターンシップで学んだこと、保育実習への課題を書く
成績評価	・ワークシート 2回 20% ・課題レポート 2回20% ・活動記録 3日分 60%

## Ⅱ-2 目標カードの作成

目標カードは、百瀬（2018）が小学校のインターンシップ用に作成した目標カードを筆者らが保育園・幼稚園用に大幅に改変したものを利用した<sup>(7)</sup>。目標カードおよび共通目標の評価指標であるルーブリックを表2、3に示す。目標に関しては、個人目標の導入と共通目標の絞り込みを行った。この目標カードは、保育士・幼稚園教諭の実態について把握した後の第8回目に作成させた。前述の通り、目標カードの評価は成績に反映させていない。これは、自己評価及び指導者による他者評価を成績評価に連動させないことで、評価選択へのバイアスを除くためである。また、個人目標に関しては、その内容により難易度が異なってくるためである。

目標カードの個人目標は、各自が考えた目標であるが、これは個人の課題発見のための項目であ

表2 インターンシップ目標カード

関西国際大学 インターンシップ目標カード

学籍番号： \_\_\_\_\_ 名前：【 \_\_\_\_\_ 】  
 実習先名： \_\_\_\_\_ ご担当者お名前：【 \_\_\_\_\_ 】

	項目名	目標	自己評価	評価
個別目標	課題発見		3	3
①			2	2
			1	1
個別目標			3	3
②	2	2		
			1	1
共通目標	自律性	自分の目標を持ち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。	3	3
①			2	2
			1	1
共通目標	社会的貢献性	安全・安心を心掛け、集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる。	3	3
②			2	2
			1	1
共通目標	意見交換・調整力	子どもの様子をよく観察し、保育者に対し自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。	3	3
③			2	2
			1	1
共通目標	情報発信力	実習中の出来事を記録として書きとめ、自らの学びや気づきを表現できる。	3	3
④			2	2
			1	1
インターンシップで感じた課題				

※個別目標の評価は、レベル3：非常に良い、レベル2：良い、レベル1：努力を要する、で、共通目標の評価は、裏面のルーブリックの3段階でお願いします。  
 【コメント欄】※お手数ですが具体的な場面など、お気づきをご記入お願いします。

※この評価票は、実習終了後、学生の成長のために活用します。 ご協力ありがとうございました。

表3 目標カードルーブリック

関西国際大学 教育保育インターンシップルーブリック(保育)

学籍番号： \_\_\_\_\_ 名前： \_\_\_\_\_

項目名	項目の説明	レベル3	レベル2	レベル1
<input type="checkbox"/> 自律性	自分の目標を持ち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる	<input type="checkbox"/> 実習生として自ら礼儀やマナー(挨拶や遅刻をしないなど)を守り、自律的に行動できる	<input type="checkbox"/> 実習生としての礼儀やマナー(挨拶や遅刻をしないなど)を意識し、行動できる	<input type="checkbox"/> 実習生としての礼儀やマナー(挨拶や遅刻をしないなど)を意識し、行動できない
<input type="checkbox"/> 社会的貢献性(安全・安心)	安全・安心を心掛け、集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる。	<input type="checkbox"/> 実習先で、子どもや先生が困っているとき、自ら進んで補助することができる	<input type="checkbox"/> 実習先で、子どもや先生が困っているとき、補助することができる	<input type="checkbox"/> 実習先で、子どもや先生が困っているとき、補助することができない
<input type="checkbox"/> 情報発信力	子どもの様子をよく観察し、保育者に対し自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。	<input type="checkbox"/> 自ら視点を決め、実習における気づきや感想を的確に記述できる	<input type="checkbox"/> 実習における気づきや感想を記述できる	<input type="checkbox"/> 実習における気づきや感想を記述できない
<input type="checkbox"/> 意見交換・調整力	実習中の出来事を記録として書きとめ、自らの学びや気づきを表現できる。	<input type="checkbox"/> 実習において、子どもの様子や保育者との関わりを観察し、適切な時間にわかりやすく自分の意見や考えを伝えることができる	<input type="checkbox"/> 実習において、子どもの様子や保育者との関わりを観察し、自分の意見や考えを伝えることができる	<input type="checkbox"/> 実習において、子どもの様子や保育者との関わりを観察しているが、自分の意見や考えを伝えることができない

○実習終了後、「めあて」に対する自己評価は必ず振り返りを行いe-ポートフォリオに記録を残しましょう。

\* 自分の成長を可視化し、自信につなげましょう。

り、目標を持ってインターンシップに臨むことで、具体的な着眼点で観察することを促すものである。共通目標は、インターンシップの一般的なルールを示したものであり、社会性を含む基本的な到達目標として位置づけた。

個人目標の目標カード中の評価は、表2に示した通り、レベル3：非常に良い、レベル2：良い、レベル1：努力を要する、の3段階評価とした。共通目標の評価は、表3に示したルーブリックで行うことにした。共通目標の項目は以下の4項目である。

- ①自立性：あいさつやマナーに関すること
- ②社会的貢献性：安心安全に関すること
- ③情報発信力：実習記録の記述に関すること
- ④意見交換・調整力：子どもや保育者の観察とコミュニケーションに関すること

この目標カードは、個別目標を事前授業書き、インターンシップ最終日に自己評価を記入後、担当指導者に評価をして頂いた。

### Ⅲ 目標カードの自己評価と他者評価の分析

#### Ⅲ - 1 個別目標項目の分類

立てられた目標を大まかに分類すると以下のようなになる。また、その内容及び評価結果を表4に示す。

- (1) 子どもとの関わりに関すること
- (2) 保育者に関すること
- (3) 自主性に関わること
- (4) 社会性・集団保育に関わること

表4 目標カードの分類と評価結果

		自己評価			他者評価			合計
		3	2	1	3	2	1	
子どもとの関わり	笑顔で接する、子ども目線で接する	23	8	1	20	12	0	64
	子どもの特性を理解する（好きな遊びなど）	2	3	0	3	2	0	10
	安全に配慮する	1	3	0	1	3	0	8
保育士との関わり	保育士の子どもへの接し方から学ぶ	3	7	0	3	7	0	20
	保育士の（子どもと関わる以外の活動も含め）仕事を理解する	2	1	0	2	1	0	6
自立性	自ら積極的に行動する	12	5	0	9	8	0	34
	あいさつを自ら行う	4	2	0	3	3	0	12
社会性	全体を見て行動する	2	5	1	3	5	0	16
	コミュニケーションを積極的にとる	2	17	3	3	19	0	44
	保護者との関係を学ぶ	0	2	1	1	1	1	6
合計		51	53	6	48	61	1	110

(1) の子どもとの関わりに関することが一番多かったが、この中でも、「子どもに対し笑顔で接すること」を目標に掲げる学生が多かった。笑顔で接することは、子どもに不安感を与えないなど、園に溶け込むうえで大切なことであるが、快活さやコミュニケーションにもつながる重要なことである。(4) の「あいさつ」を含めて第一印象や入口のところからしっかりと取り組む前向きな目標が挙げられており、また(3) の「自主的に行動する」からも事前学習を通して、インターンシップへの期待度が高まっている様子が伺える。

(2) の「保育士の子どもへの接し方」や(4) の「全体を見て行動する」では、保育技術や集団保育といった、これまで経験のない知識や技術を知り、さらに、自分のできることは、その場で実践するという目標が掲げられていた。単なる見学ではなく、実践的な学びに結び付けようとしており、事前学習第2、4、7回において保育者の役割について学習したことが活かされていると考えられた。

### Ⅲ - 2 個別目標項目の評価結果の考察

個別目標の評価は自己評価の平均値が2.51であり、指導者からの他者評価は平均値が2.48とほぼ同じであった。また、自己評価と他者評価で同一の評価を行った一致率は約93%であった。各項目別で見ても特に、評価に差が大きい項目はなく、学生が感じたものと指導者から見たものが一致している傾向にあった。今回の個別目標は比較的、活動として目に見える形の項目が多く、あいさつや笑顔、コミュニケーションなど出来ているか、いないかの判断が分かりやすかったこともこの結果の要因であると考えられる。

### Ⅲ - 3 共通目標項目の結果と考察

表5に共通目標の評価結果を示す。

表5 共通目標の自己評価及び他者評価結果

		自己評価			他者評価		
		3	2	1	3	2	1
自律性	自分の目標を持ち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる	15	38	2	9	45	1
社会的貢献性(安全・安心)	安全・安心を心掛け、集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる。	8	47	0	4	51	0
情報発信力	子どもの様子をよく観察し、保育者に対し自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。	18	35	2	6	49	0
意見交換・調整力	実習中の出来事を記録として書きとめ、自らの学びや気づきを表現できる。	21	34	0	9	43	0
合計		62	154	4	28	188	1

共通目標の自己評価の平均は2.27(標準偏差:0.45)であった。また、他者評価は2.12(標準偏差:0.34)であった。分散分析の結果を表6に示す。

表6 共通目標の分散分析結果

	自己評価	他者評価
平均	2.263636	2.124424
分散	0.231548	0.118706
観測数	220	217
自由度	219	216
観測された分散比	1.950599	
P(F<=f) 片側	5.51E-07	
P(Ftest(両側))	1.1E-06	
F 境界値 片側	1.250642	

共通目標に関しては、指導者からの評価が有意に低くなっていた。特に、「子どもの様子をよく観察し、保育者に対し自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる」である情報発信力は、 $P=0.0002$  (Ftest 両側) で指導者からの評価が低かった。理由としては、2点考えられる。一つは保育者としての観察眼の差である。子どもの観察の視点や危険度、子ども気持ちの理解については、その技量に学生と保育者とで差があるものと考えられる。そのため、指導者が気付いていることも、学生は気づけていない点も多い。気付いていないことは当然報告できないため、認識に差が生まれたことが推測させる。2点目は、報告の不十分さである。子どもの様子を見ていて気付いたことでもどの程度報告をする必要があるのかは、体験や具体的に指導されなければ身につかない。インターンシップの3日間という短期間では、これらの報告に関する判断が十分には経験として得られないものと考えられた。

#### IV 活動後のレポートからの分析

インターンシップ I の振り返りを、以下の質問項目についてワークシートに記入させることで行った。

- ①インターンシップ I で感じた課題を3点あげる。(できるだけ具体的に)
- ②あなたが課題を克服したとすると、子どもにどのようなメリットがあるか。
- ③課題を克服するために、何をいつまでに(いつ頃)行うか？

57名の学生が感じた課題に関し、カテゴリ別に表7に示す。質問項目については、学生が振り返りの際、次の目標をたてる手だてとなるような内容にした。しかし、技術的なことは自分の行動力次第でできるが、子どもや保護者との対応や、集団保育についてなど保育場面についての課題は、相手があることであり、実習以外では実践の場面も少なく、課題をいつまでに克服するという質問には答えにくく評価の難しいところである。

課題別にみていくと、技能面での課題を感じていることが分かる。内容も具体的であり、さらに、

2年次に行われる保育実習までに技能や知識を身につけたいと記述されていた。インターンシップの目的である、「具体的な課題を発見する」ことが出来ていることが明らかである。内容としてはピアノの演奏力の必要性を多くの学生が感じている。また、手遊びや絵本の読み聞かせ、歌を歌うなど、現場で保育者の姿から実感したようだ。子どもとの対応については、課題が様々あり色々な場面で戸惑っている様子が伺えた。

表7 インターンシップ後の課題認識

カテゴリ	課題	人数	いつまでに
技能	ピアノの演奏力・レパートリー	24	卒業するまでに自分で・1年の間に本の半分以上弾ける・毎日少しずつ
	遊び方	3	実習までに
	安全に遊ぶ	5	実習で
	言葉使い・話し方・話術	6	日頃から友達の言葉に耳を傾ける・授業で・実習までに
	手遊び	15	実習までに、10個以上
	知識を増やす	2	実習までに
	絵本のよみきかせ	14	自分で週1回練習・甥っ子にする・図書室利用・友達同士で
	歌の種類増やす	8	実習までに・授業で
子ども対応	泣く子どもへの対応	3	
	子どもの気持ち理解	3	授業で・実習までに・現場の先生に話を聞く
	子どもと同じ目線に	1	
	噛みつき	1	
	おもちゃの取り合い	3	
	ほめ方	3	国語力をつける
	注意の仕方	3	実習で
	子どもの体調管理	3	アレルギーを学ぶ
	援助の仕方	3	実習までに・授業で成長過程を学ぶ
	偏食の子ども	1	
	安心感・信頼感	5	
保護者対応		6	授業で・実習までにコミュニケーション力をつける
知識	衛生面の配慮	1	
判断力・積極性	けんかの止め方	24	実習で学ぶ・10月までに・ボランティア
	子どもが転んだ時	2	
	臨機応変に対応	6	日々の意識

カテゴリ	課題	人数	いつまでに
態度	自分から動く	2	
	笑顔	2	4年間かけて
	大きな声で	1	
	表現力	1	日頃から
保育力	専門性高める	1	アルバイト・ボランティア
	視野を広く持つ	9	普段の生活でも
	集団保育の対応	10	
体力	疲れにくい体	1	実習までに
人間関係	自分の考えを相手に伝える	2	
	協調性	1	

## V おわりに

事前学習の改善と目標カードの導入により、インターンシップ前の目標設定が前向きで具体的なものになっていた。目標カードの評価結果からは、個別目標はおおむね評価者からの評価と一致していたものの、保育者への情報伝達を中心に、評価者からの評価が自己評価に比べ低い傾向にあった。保育実習を行っていない大学1年次の学生は、子どもを多角的な視点から見る観察眼に乏しく、また保育者に「何を、いつ、どのように伝達するべきなのか」を十分に理解していない。そのため、この評価の差を無くすことは困難である。この差を利用し、事後学習のときに「なぜこの差が生まれたのか」に関して学生に省察を行わせることで、2年次に行われる保育実習に繋げることが重要であると考えられる。この差がより専門的な学びへの動機付けになるのである。また、中島（2014）らは『「保育・保育職についての理解」や「保育指導力」に関する教育的指導が保育者養成課程の学生の実習先での学びを促すことが示唆される』と述べており<sup>(8)</sup>、2年次の保育実習までの期間に学生が感じた知識・スキルを身につけるのみならず、専門的な知識を学ぶことで保育者としての職業観を深めていくことが重要である。

インターンシップ後の学びの連続性に関して、2年次の保育実習までにピアノの技術を向上させるなど、比較的分かりやすいスキルの向上を求める傾向があった。1年次から2年次の学びに関しては、このような分かりやすいスキルのほうが、技術が向上した場合に得られる達成感や自信が大きいため、振り返りの方法としては妥当であったと考えられる。しかし、個別目標に挙がっていた「全体を見る」などの集団保育の視点や安全配慮に関しては、具体的な気づきとしては少なかった。国民生活センターは子どもの安全管理に関して「子どもの事故」を交通事故、誤飲・窒息、やけど、転倒・転落、水の事故の5つに分類し、発達段階ごとに起こりやすい事故を示している<sup>(9)</sup>。今回の

事前学習でも子どもの安全管理に関して指導を行っているが、より具体的に、また発達段階ごとに起こりやすい事故を図・絵などを用いながら指導していく必要がある。

保育士・幼稚園教諭の確保に向けた動機付けの機会として、また質の高い保育者養成を行うためには、これらの点を踏まえ初年次に開講される「インターンシップⅠ」の授業内容の更なる改善を行っていくことが重要である。

#### <引用文献>

- 1) 平沼博将「保育士養成課程における実践記録リテラシー教育の可能性」『平成18年度全国保育士養成協議会第45回研究大会実施要旨』（2006年）、P56-57
- 2) 後藤範子「4年制大学における保育士養成教育と資質能力向上に関する一考察」『東京家政学院大学紀要』第51号（2011）P24
- 3) 文部科学省（幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議）「幼稚園教員の資質向上について - 自ら学ぶ幼稚園教員のために -」2002年6月（2002）
- 4) 下里里枝「就学前保育・教育施設へのインターンシップの効果と課題：大学1年生のインターンシップの場合」『教育総合研究叢書』第10号（2017）P29-39
- 5) 下里里枝、谷ロー也「就学前保育・教育施設へのインターンシップの効果と課題(2)大学1年生のインターンシップの場合」『教育総合研究叢書』第11号（2018）P147-157
- 6) 一般社団法人 全国保育士養成協議会「平成28年度指定保育士養成施設における教育の質の確保と向上に関する調査研究 研究報告書」（厚生労働省委託調査研究事業）
- 7) 百瀬和夫（関西国際大学）「小学校インターンシップの目標カード」未発表（2018）
- 8) 中島健一郎、他9名「保育者養成校における学内と学外の学びの連続性についての探索的検討」『長崎女子短期大学紀要』第38号（2014）P99
- 9) 山中龍宏「子どもの事故」国民生活センターホームページ  
[www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201210\\_01.pdf](http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201210_01.pdf)

#### <参考文献>

- 1) 成田信子・森田健「『教育保育インターンシップⅡ』の現状と課題－保育所・幼稚園の場合－」『関西国際大学研究紀要』第10号（2009）

## Abstract

Internship I, implemented in the first year of university after high quality nursery teacher training, is important as an opportunity to motivate with a view to securing nursery and kindergarten teachers. This study clarifies the sense of purpose of the student doing the internship and investigates the usefulness of goals cards introduced in order to maximize the effects of the internship.

The result of introducing goals cards was positive and specific goal setting before the internship. In addition, it was possible to have a specific individual understanding of tasks after the internship with a view to practical nursery training the following year. Further, individual goals roughly matched self-evaluation and evaluations from evaluators. However, as there was a decreasing trend in evaluation from evaluators focusing on communication with nursery teachers in comparison with self-evaluation with respect to shared goals, it was considered that it is essential to improve the contents of post-event learning based on these results.